

徳島県における2050年・2025年までの取組・将来像
(主な意見聴取結果 [現状の課題を含む])

【現行計画の7基本目標をベースに分類整理】

にぎわい・感動 とくしま	経済・新成長 とくしま	安全安心・実感 とくしま	環境首都・先進 とくしま	みんなが主役・元氣 とくしま	まなびの邦・育み とくしま	宝の島・創造 とくしま
<p>(交通・都市空間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 四国新幹線を実現させ、関西の中心地に1時間前後で行けるようになれば、徳島が関西のベッドタウンになることができ、移住する人が増えて人口減少が防げる。また、日本中の四国・徳島に対する価値観が変わる。 情報通信産業の振興や情報通信産業の企業立地の促進、「とくしまICT村」の構築により、「ICT光高速ブロードバンド立国・とくしま」を推進する。 紀淡海峡を結ぶ国土交通軸として四国新幹線が位置づけられている「太平洋新国土軸構想」というのがあって、徳島県もメンバーになっている太平洋新国土軸構想推進協議会でも構想実現に向けた取組みを行っています。 「4Kスーパーハイビジョンテレビ」や「8Kスーパーハイビジョンテレビ」の普及促進により、徳島県が「映像コンテンツ先進県」となる。 老朽化した公共施設の移転又は改修、街の中心地の再開発が進んでいる。 	<p>(地域経済活性化・農林水産業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地産地消は新鮮でおいしく、安全・安心な食料を消費者に提供でき、輸送距離が短いので、環境にも優しい。今まで以上に給食・外食・スーパー等で地産地消を推進して欲しい。 規格外、採れすぎた農作物もちゃんと説明すれば需要はあり、私のところではその需給の仕組みが成り立っている。 鳴門市から海陽町の周辺海域で養殖漁業を造る。近代において漁獲国際会議で捕鯨を始めマグロ、鯛、ハマチ、ぶり、うなぎ等の漁獲について厳しい制約をうけている我が国であるが、徳島県でも鮭(ハモ)を特産品として上記漁種の養殖を前記の海域に設置して獲る漁業から造る漁業で需要に対応していく時代に改革してはどうか。 「食の桃源郷・とくしま」、「食の楽園・とくしま」を推進する。 「第一次産業の6次化から4次元化へ」→観光業・サービス業とのマッチングを積極的に行うことにより、体験型により雇用のきっかけを増やすことができ、技術の継承も可能とすることが見込める。 何も作っていない農地の減少 	<p>(防災教育・交通安全)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害への備えとして、耐震化工事の補助金の拡大、小さい頃からの防災意識の強化、より安くて強い耐震設備などの開発、県民全体の防災意識の強化や大規模災害が起きたときの助け合いの心の育成が必要 学生、地域と企業が共同で考えを話せる機会を作る。 交通ルールが守られて、死亡事故のない安心して暮らせるまちづくり 徳島はケーブル普及率がとても高いので、大規模災害への関心を促す放送を行うとよい。 大規模災害への備えとして、県民が巨大地震について理解が必要に際しては、さまざまな機会を利用して正確な情報を伝える。 「全県民オリジナル自転車免許取得の日」小中学生から高齢者まで徳島県オリジナルの自転車免許証の交付→一交通事故対策、マナー違反対策として全国で初めて自転車免許を全県民に 	<p>(環境・エネルギー)</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー問題や環境問題の解決のため、自分だけでなく、全体の利益を追求する。子どもたちに正しい教育を。自分の意識をしっかりと持つ。 何が問題でどのように解決すべきかを県民にも明確にし、方向付けする必要がある。 徳島県が自然再生可能エネルギーで「地産地消の自然再生可能エネルギー」を推進する(ICTの情報通信技術を活用して太陽光発電、太陽熱発電、風力発電、小水力発電、バイオマス発電等を一体的に管理する「ICT・スマートグリッド」を構築する、「潮流発電施設」、「海流発電施設」、「浮体式洋上風力発電施設」の設置を推進する、など)。 県内には多くの自然が残る、エネルギー事業が暖房内止や徳島のPRの1つになるのではないかと。 	<p>(子育て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化の背景として、生涯未婚率、平均初婚年齢及び平均出産年齢もどんどん右肩上がりで、晩婚化と晩産化が進んでいる。 高校生を対象にした調査での「大学進学、就職まではイメージできるが、その後の結婚、出産、子育ては全然想像できない」という結果を踏まえ、少子化対策として、小学校の頃から「結婚、出産、子育て、人生のライフプランを理解できる教育」を始めるべきではないか。 若年層の雇用環境に関して、非正規だと結婚していない人の割合が大きく、既婚者の割合は収入300万円が目目。既婚者の理想の子どもの数は現実よりも理想の数が多い。理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「高齢で生むのはいやだから」で、実際に子育て世帯の所得を見ると、過去に比べて低所得層にシフトし「年収が低い世帯が子育てしているように感じられている」という調査結果 子育てしながら家でも働けるように、企業が労働者にある程度の選択肢を与える。 	<p>(郷土で学ぶ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海陽町における限界集落での高齢者との交流の中、本当に幸せな結末について考えることが多くなり、物質的、都会的なものだけが幸せではなく、当たり前前の自然の中で暮らすことの豊かさを小さい頃から体験させ、教えていきたい。 学力テストでもひけをとらないような基礎学力を向上させ、国際社会にも通用する英語教育にも力を入れていく。 家事や介護でのロボット技術定着のため、ハード面よりソフト面に課題が見られるので、開発に必要な情報教育をより早い段階(小学校等)から始めるべき 家にこもらず、祖父母や父母から昔の話(生きる知恵・豊かさを)を聴いたり、自分から山、海、川でその豊かさを体験することで、身体にふるさとが染みつき、一生の楽しい思い出となり、また戻りたい・守りたい徳島になる。 また、障がい者を含め、徳島に住む、働く、訪れる、全ての人に対してやさしい、気遣いのできる人間形成を目指すべきと考える。 	<p>(人口減少対策・魅力ある地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅前、そごう、新町の商店街、飲食店に入っているお客さんがあまりにも少なく父親がビクビクしていた。若い人が年配の人の声を聞き、食べ物、観光などいろんな角度から考えていく必要があるのでは。大阪や高松、東京など大都市の人の流れや店などを視察して勉強するのでもいいと思う。働く場所が増えれば消費率が上がり活気が出ると思うので、働く場所の確保・創出を考えるべき 私の経験から、各個人経営で忙しい商店街においても、人と人とのつながり、情報の伝播が大事であり、行政、商工会議所からの情報提供により、一致団結した取組、街おこしに繋がるものである。 来県者(移住希望者)のハードルを下げる、背中を押してくれる、「暮らせる、創れる、挑戦できる」徳島でありたい。 人口減少や超高齢化を見据え、都市機能をコンパクトに集約、分担するなど、計画的な街づくりが大切である。 都市部よりの移住の推進
<p>(観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> 徳島で20年仕事し、その後10年…外から見ると、徳島といえば阿波おどり。でも今や大阪とかかなり日帰りコース。昼間に行っても観光することができ、徳島ラーメン食べたら終わり。結局、夕方行って踊り見て、ラーメン食べてその日に帰るか、高知や香川に行く。つまり徳島泊まってもらう施策が必要と感じる。 四国観光特区の制定・・・徳島の特色を活かすつづきの垣根を越えた観光戦略「大歩危」に行くには、徳島空港から3時間かかるが、高知空港からは1時間で行くことができ、四国4県それぞれの強みを活かし、補完し合い、「四国観光特区」を充実させ、その中で徳島らしさを出すことが必要 「とくしま麺街道」(徳島ラーメン、鳴ちゆるうどん、土成・御所たらいうどん、阿波半田そうめん、祖谷そば)を全国に観光宣伝する。 	<p>(雇用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分の好きな仕事を自分の好きな場所でする」ってスゴいことですね!「職の都合でやむを得ず徳島を離れる人」も確実に減るのでは。徳島の強み「全国屈指のブロードバンド環境」、空き家も再利用して自然豊かな快適な環境の中で仕事ができ、しかも自由な時間が増えて人間らしい充実した生活が送れるというのは、都会にはない、田舎ならではの新しいライフスタイルだと思いませんか! 「職業訓練に直接民間企業から講師を出す」→雇用する側から現場で必要な技術を教え、現場と訓練のギャップを減らすことにより、職業訓練を終えても就職に結びつかないケースを減らすことができる。 「百人以上雇用できる企業の百社以上の企業立地」によって「徳島県若万人新規雇用計画」を促進する。 自由な働き方を一般化するには、政府・企業が多様な働き方を選べる制度を整備していくことが必要 	<p>(防災・減災・復興対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年を見据えた時に2つのリスク、1)人口減少・過疎化による社会的リスク、2)今後30年以内70%の確率で起こる南海トラフ大震災などの自然災害リスク、が考えられる。これらを踏まえて、避難生活のあり方、地域コミュニティ単位の生活再建など、何がその地域、生活にとって本当に必要なかを整理したうえで、あるべき避難、復興計画の策定が必要 防災には個々の常日頃からの備えも重要であるが、地道な近所付き合いから、地域内における信頼関係を築き、お互いの生活情報を増やし、相互扶助の地域づくりに繋げていかなければならない。 完全地震予測システムの開発に投資し、官民財一体となって被害を最小限に留める。また、備蓄品を改良・増量して少しでも避難生活を快適にする備えをする。 	<p>(快適な生活環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> 徳島の素晴らしい自然環境(大気、河川、海洋、土壌など)を適正な保全対策により、すがすがしい空気や良質な水質等がより快適に維持されている。 限りある自然を大切にという呼びかけが定着し、県民や観光客の自然への意識が非常に高まっている。 カバー写真が大川原高原になっていてびっくりしました。佐那河内村のPRありがとうございました。気温が低いので、紫陽花の見ごころは平地より遅いです。晴れた日は、淡路島まで見えます。 	<p>(高齢化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目指すべき地域像【超高齢社会に向けた高齢者の介護や認知症教育を小学校から実施】→「高齢者に心からやさしい街が実現し、認知症への理解や地域対策も進む」 2060年には平均寿命が男84歳、女91歳になるとの推計があるが、健康寿命の延びと平均寿命の伸び率が大きく、要介護者や医療的支援で延命する高齢者の増が予測される。 できるだけ自分のことは自分で行い要介護者を減らす。さらに、認知症を減らすため、老人ホームと幼稚園や保育園を一体化した施設を作り、責任感を持たせ退職した後もやりがいのある生活を営めるようにする。 目指すべき高齢者像【高齢期の生活設計のための「すだち(巣立ち)手帳」配布】→「すだち手帳」の導入により高齢期の生活設計と専門職からのアドバイスが可能 	<p>(生涯学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 働いている人・高齢者の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」 【地域の大人が地元市町村や徳島県をよく理解し、子どもたちに伝えられる】 →「『〇〇市(町・村)マイスター!先生』『とくしまマイスター!先生』の育成」・・・「とくしま学博士」認定者で構成されるマイスター先生を育成し、子どもたちへの教育、マイスター検定の問題作成等を行う。 【学びたいときに学びたいことを学びたいだけ学ぶことができる】 →「『徳島学び発信BOX』の提供」・・・県民の学びへのニーズを把握するシステムを構築し、学びに関するテキストや映像の作成、情報発信を行う。 ケンブリッジ徳島分校・ハーバード徳島分校などができた国際化の時代に対応するのは、留学しなくても語学の勉強はできるし、親の負担も減ると思いますが 	<p>(協働立県)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「協働立県とくしまづくり(→自立循環型経済)」実現のためには、官民がうまく協働する必要がある。 地域性を活かして新たな協働モデルとなるような先進的取組、地域活性化につながるものであれば、既存の行政分野に属さない独自の取組についても柔軟に協働できる仕組みづくり →「民に委託することにより官ではできないことができる。枠を超えて柔軟に対応できる。方向性の取捨選択ができる。まちをデザインできる。求める方向性のマッチングができる。必要な取組として、積極的に行政から思いのあるNPO等に委託するなどし、うまく協働する。」 NPOの主体性を信頼しませる中で、官の力が必要な部分においては最大限に協力。官も民間のビジネスモデルをより柔軟に取り入れていく。
<p>(国際交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生や大学生での海外留学は非常に良い経験となるので、短期のプログラム(夏休み、冬休みに気軽に行けるような)も、高校生のために学校全体で行っていくべき 留学生や海外から来られている人にバスツアーや料理教室を通じて、気軽に地元徳島の産業体験や文化体験ができる取組を進め、その良さを母国に伝播してもらうことも大切 外国人のための日本語教材をもっと分かりやすくバージョンアップした方がよい。 学校などで交流する機会を増やし、徳島県の魅力を知ってもらう。 英語表現を取り入れた人形浄瑠璃を習っているお子さんたちには10年後、20年後の民間大使になってもらいたい。 	<p>(次世代林業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ三連動地震への備えとして、先行高地移転や応急仮設住宅建設への準備が急務となっている。この状況を「木材備蓄」をスタートさせる好機と捉え、一年分、徳島で建設される木造住宅、木造建築に使う材を製材した上で在庫として保管しておき、一年経過したもから通常の建築工事に使うオーパーフロー方式とする。いつ発災しても、一定量の木材が供給できる。日常の住宅建築の現場では、天然乾燥された良材が常に使える状態にあることになる。 不在の山主が、林業従事者に山林の管理を委託しやすい仕組みができる。 加工技術が発達し、木工、建築、バイオマス燃料等、幅広く木材の利用が進む。 	<p>(食の安全・消費者救済)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「くらしのサポーターの若者化」『若者くらサポ』を設置し、ネット被害等もシェア →若者のネット被害対策 「QRコード」添付のとりくみ→食の情報IT化拡大計画・生産者情報確認→安全・安心な食の確保に向け。 食品アレルギー対応の飲食店検索サイトが日本語版・外国語版が整備され、スムーズに飲食店を探すことができる。 	<p>(自然との共生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家畜用の飼料が、イノシシの食害に遭っており、抜本的にイノシシの頭数を減らすための効率的な狩猟のやり方や、たくさん捕獲している方法・事例の冊子などがあればありがたい。 吉野川河川敷で運動する際、棘が刺さりやすい外来種の雑草(メリケンソウ)が繁殖しており、その駆除について効果的な対策を講じてもらいたい。 	<p>(障がい者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者の社会参加、就労が当たり前になっているために、お互いの理解を深め、お互いを助けられるよう、自然に意識できるようにしていきたい。 徳島の未来としては、障がい者自身が地域を支えていく役割を担って社会貢献ができる新たな仕組みを作りたいので、ご支援、ご協力をお願いします。 障がい者の社会参加を当たり前とした企業などを作っていく。 1)ハナミズキ西部サテライトにおける、より身近な相談支援体制の充実、2)生活困窮者支援制度スタートにかかる相談窓口、ネットワークの充実、3)障がい者の就業意欲向上・自立のため工賃アップなど、更なる生活弱者の支援充実が必要 	<p>(特別支援教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の児童・生徒の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」 ※「幼小中の児童・生徒」に加え、以下のことを実現【個性を光らせ、自ら発信できている】 →「『徳島の若者、この人!この取組!知ってね☆キャンペン!』の実施」・・・特別支援学校、幼小中高校に通う児童生徒がお互いのことを理解し、個性や能力を認めたと、徳島の若者では「この人!」、「この取組!」と徳島の光を互いに見出すことができる教育(交流)を実施。協働の取組も実施する。それを前提に、若者たちが交流できる場を創出し、それぞれの意見を聴き、それを発信できるシステムを構築 高等教育機関でも同様 	<p>(イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域、大学、行政の連携が感じられたい。例えば、若者から知識豊富な社会人まで集めて、何かのプロジェクトを1つ試作段階でやるとか、せつかくのアーケード街を賑わせて活気づけて欲しい。 「スイーツ甲子園」はあるよなので、「ベジタブル・スイーツ甲子園」、もちろん県予選ありで!改めて地元の野菜を見つめ直すよききっかけになるかも・・・ 宿泊者数増の要因として、「マテ★アソビ」「とくしまマラソン」の影響が大きいのでは 10年後に阿波おどり以上に有名になるイベントをつくる→宿泊者数増が見込める「徳島LEDアートフェスティバル」拡大版の実施 徳島に行けばオタクグッズが何でも揃う。
<p>(文化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い時に伝統文化に触れた記憶が、徳島のことを思い出す時幸せな記憶と結び付いて、その人の中でも輝いて欲しい。また、徳島というふるさとを輝かせることにも繋がって欲しい。 「四国霊場88箇所と遍路道」と「紀伊山地の霊場と参詣道」、「四国歴史文化道」と関西の「歴史街道」との広域的な歴史文化連携の推進など、徳島県が新たな「歴史と文化の歴史街道づくり」を推進する。 	<p>(科学技術・新産業発展)</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの社会のいろんな課題解決のためには、ドラえもんのようなロボットやICTなど科学技術力が不可欠のような気がする。 →高専11校、社会実装コンテスト拡充→ロボ技術で課題解決 生活面で実際に活躍できるロボットは開発されつつあるが、環境整備がまだまだである。車輪のついたロボットは街中では動かせず、2025年にはロボットと人間が共存できる環境作り(安全面、規則も含め)が必要である。価格を落とすことで活躍の場も広がると思う。 	<p>(医療の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな病気や怪我の治療が可能な高い技術を持つ病院を作るため、医療に興味を持つ子どもを育て、高齢社会に伴う医療技術の重大な倫理なども意識させていく。 県内どこに住んでいても、24時間診察してもらえるようになっている。 「医療スタッフの地域派遣制度」県内地方地域へ独自の医療スタッフ派遣制度 →官民協働で看護師・リハビリスタッフ等の不足解消へ。 	<p>(健康)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共の交通機関の発達により、よく歩くことによって糖尿病患者など生活習慣病が激減している。 県民の野菜摂取量を増やし、生活習慣病を予防し、健康寿命を延伸する。 病気死亡率、自殺率の低下。QOLの劇的向上 ※テーマは「徳島の活性化」住んでみーた徳島ー」 	<p>(バリアフリー)</p> <ul style="list-style-type: none"> バリアフリーやユニバーサルデザインを充実させ、人々の考え方や意識を変えていくこと 	<p>(青少年健全育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・専門学校など高等教育機関の学生【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」 【自らが主役・主取組であることを認識し、それらを活かすことができる】【文系・理系の別なく、それぞれの学びに自信を持ち世界で活躍している】 →「『トクシマ若手専門家からの発信!みんなでトクシマSHOW!』の実施」・・・全国に先駆け、多様な分野の若手研究者・学習者が入り交じり、自らの研究学習成果を一堂に発表できる場を創出 	<p>(行政改革)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の農林水産審議会の委員をしているが、クリエイティブ部会みたいな若手部門がなく、何十年も同じような意見がずっと出てるのかなという思いがあるので、こういう感覚の農林水産審議会があれば何か一気に変わることができるのではないかと。 農産物のPRにおいては、現在、部門間の連携が見られず、効果的な発信ができておらず、強力な広報体制の構築が必要
<p>(スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県南の豊かな自然と充実した環境整備をPRして、スポーツ合宿に最適な地である旨、県内外を問わず発信し誘致を増やしたい。 メジャーなスポーツはこの県でも行っているの、少しマイナーなオリンピック競技になっている種目の大会開催に向けた整備ができれば良い。 	<p>(とくしまブランド)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの市町村の特産品が全国区で名産品となる。(神山町道の駅梅アイス、吉野川市川島町焼き肉のたれ等) 主要都市にとくしま100%、ショップやレストランができ、行列ができる。 <p>(産業の進展)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざす伝統的な産業を世界にも発信し、産業の活性化につなげていく。 	<p>(健康)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共の交通機関の発達により、よく歩くことによって糖尿病患者など生活習慣病が激減している。 県民の野菜摂取量を増やし、生活習慣病を予防し、健康寿命を延伸する。 病気死亡率、自殺率の低下。QOLの劇的向上 ※テーマは「徳島の活性化」住んでみーた徳島ー」 	<p>(共助共生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての世代が繋がった地域社会が幸せな徳島づくりに繋がる。 もっと、介護という仕事に目を向け、全員が少しでも介護の知識を持つと家族でも、自分達の力で高齢者を支えられるのではないかと。 	<p>(開かれた教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「海の里山」や「山の里山」の地域資源で地域の自立を促進する(関西地域の小・中学校の「臨海学校」や「林間学校」の誘致、高校や大学の「スポーツ合宿」の誘致、首都圏のICT企業の「ICT合宿」の誘致に力を入れる)。 	<p>(誰が幸せ・男女共同参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人生を通じて誰もが共通して直面する生活課題をフックアップで適切な情報入手できるネットワークの構築。 女性海外派遣事業として、海外の政府関係機関・公共施設等を訪れ、貴重な活動経験を通して多く学び、女性が輝く日本を実現していきたい。 	<p>(誰が幸せ・男女共同参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人生を通じて誰もが共通して直面する生活課題をフックアップで適切な情報入手できるネットワークの構築。 女性海外派遣事業として、海外の政府関係機関・公共施設等を訪れ、貴重な活動経験を通して多く学び、女性が輝く日本を実現していきたい。